

開花早生性があり，半八重咲きの白色夏秋スプレーギク品種 「サザングレイス」の育成

南 公宗

鹿児島県農業開発総合センター 果樹・花き部 花き研究室

1. はじめに

鹿児島県のきく類の生産額は、33.3億円（2021年度）で、うちスプレーギクは17.3億円（52%）（鹿児島県「令和3年度花き生産出荷実績」）であり、作付面積、出荷量は、ともに愛知県に次ぐ全国2位である（農林水産省「令和2年産花き生産出荷統計」）。

当県では、秋スプレーギクと夏秋スプレーギクの両タイプの品種が県本土から南西諸島までの県全域で広く栽培されている。

夏秋スプレーギクについては、近年、夏期の異常な高温の影響により著しい開花遅延が生じており、特に盆などの需要期に計画通りに出荷できないことや、花房や草姿の乱れ等が問題となり、産地からは夏期の高温でも開花遅延しにくい開花早生性の品種の開発が要望されていた。

そこで、当県では、夏秋スプレーギクの品種育成に取り組み、今回、開花早生性があり、高温でも開花遅延しにくい、半八重咲きの白色新品種「サザングレイス」を育成したので、紹介する。



写真1 「サザングレイス」の草姿

2. 品種の育成の経過

「サザングレイス」は、子房親に花色が白色で開花早生性があり、花容や草姿が優れる県育成系統「24KS-26」を、花粉親に花色が白色で開花早生性があり、低温期でも花卉にアントシアニン色素を発色しない県育成系統「28KS-07」を用いて交雑育種によって作出した品種である。2018年2月に交雑種子を採種、同年4月には種し、得られた27個体から8月出し用の電照栽培の個体選抜において7個体を選抜した。2019～2020年度の系統選抜試験において、3系統に絞り込み、2021年～2022年度に系統適応性検定および県内3か所で現地適応性検定を行った。その結果、生育開花特性などに優れた1系統を選定し、2023年2月に品種登録出願を行い、同年7月に「サザングレイス」として登録出願公表された（写真1）。

3. 品種の特性

「サザングレイス」は、花色が白色で、花卉数が40枚以上と多く、半八重咲きである（写真2）。

収穫期（切り前）は、舌状花が花の中心部を覆うため露心しない（写真3-左）が、満開まで開花が進むとやがて花盤がみえる（写真3-右）。

季咲きの開花は、6月上旬でつぼみや花卉へのアン

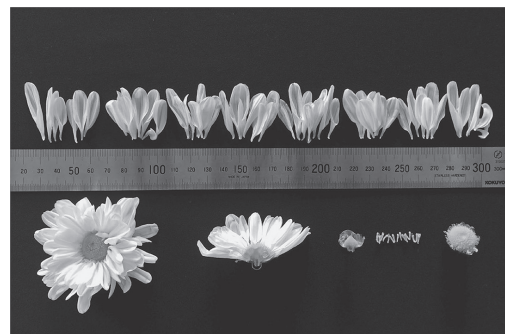


写真2 「サザングレイス」の花容

表1 「サザングレイス」の生育・開花特性 (2022年, 南さつま市)

作型	品種・系統名	花色	50%	到花	収穫時	85cm	有効花数(輪)		頂花
			収穫日 (月/日)	日数 ³⁾ (日)	草丈 (cm)	切花重 (g)	一次	二次	花首長 (cm)
季咲き ¹⁾	サザングレイス	白	6/3	-	113	64	8.2	1.1	4.8
6月	サザングレイス	白	6/16	49	133	64	11.7	1.3	6.3
	サザンペガサス	白 ^{ア2)}	6/19	52	126	62	10.0	1.3	12.0
8月	サザングレイス	白	8/7	51	126	97	11.4	2.2	9.8
	サザンペガサス	白	8/16	60	132	67	8.8	0.1	15.1
9月	サザングレイス	白	9/6	48	103	94	13.0	0.6	7.4
	サザンペガサス	白	9/16	58	111	54	10.3	2.7	12.2

注1) 季咲き:定植 1/11, 6月出し:定植 3/24, 消灯 4/28, 8月出し:定植 5/13, 消灯 6/17, 9月出し:定植 6/1

2) 白^アは, つぼみや花弁にアントシアニン色素の発色がみられたことを示す

3) 到花日数は, 消灯日から50%収穫日までにかかった日数, いずれも摘心2本仕立て栽培



写真3 「サザングレイス」の開花の変化
左: 収穫適期 (切り前), 右: 満開期

トシアニン色素の発色はみられない (表1)。

6～9月出しのいずれの作型も, 対照品種「サザンペガサス」(鹿児島県育成品種)より開花早生性で, 到花日数は50日前後と短く安定している。また, 一次



写真4 8月出しの開花比較 (消灯後58日目)
左: 「サザングレイス」, 右: 「サザンペガサス」

花数は10輪以上で, 頂花の花首長は「サザンペガサス」より短い (表1)。

6月出しの到花日数は49日前後で, 「サザンペガサス」より3日ほど早い。低温の影響によるつぼみや花弁へのアントシアニン色素の発色はみられない。

8月出しの到花日数は51日前後で, 「サザンペガサス」より9日ほど早く, 一次花数は3輪ほど多い。切り花重は重く, ボリューム感がある (写真4)。

9月出しの到花日数は48日前後で, 「サザンペガサス」より10日ほど早く, 切り花重は重い。二次花数が少なく, 不要な側枝の発生も少ない (データ略)。

4. 適地, 栽培上の留意点

作型にかかわらず到花日数や草姿が安定し, 低温期でも花弁にアントシアニン色素の発色が確認されないことから, 白色品種として, 6～9月出しの幅広い作型に適する。また, 母株での採穂性はよく, 種苗増殖も問題ない。

5. おわりに

「サザングレイス」は, 夏秋スプレーギクでは珍しく半八重咲きで, 花容が華やかなことから, 市場での新たな需要が期待される。「サザングレイス」の栽培は, 当県内の生産者に限定することとしており, 鹿児島県農業開発センターは, 安定した種苗供給に関係機関と連携して取り組んでいる。

〒899-3401 鹿児島県南さつま市金峰町大野2200

(みなみ ともひろ)